

## 入賞作品

### 秋田内陸線に乗って

作山 キヌ

阿仁合駅迄、家からは下り坂である。歩いて十四分はかゝる。小鳥のさえずりを聞きながら駅まで急ぐ。秋田内陸線を利用し、通院している。阿仁合駅に鷹巣行き列車が入ると、進行方向右側の窓際に席をとる。

小淵駅を過ぎると、あまり気にしていなかったが、ガッタンゴットンと、その時により気になる。登りになっているのかなあと思う。

前田南駅を過ぎるころになると、今日の森吉山、どのような顔を見せてくれるのかと、一瞬目を凝らす。その時々天候により、霧がかかっていたり、頂上雲におゝわれていたり、日々変化している。

森吉山を眺められて、ほっとする。

列車からの眺めは、まるで墨絵のようだ。

通院の帰りは、鷹巣駅から、座席を右側の窓際にとるようにして、田園風景。阿仁川のほとり、水の流れに写る景色を、眺めるのが好きだ。「水面に樹木景ありとくと見る」と詠んだことがある。

平成になってから、今は亡夫と、秋田内陸線に乗り、途中の景色を眺め、いいなあと思う駅に降り、次の列車時刻を調べて

2人で、写生をする。主に角館行き方面に。同じ趣味を持ってよかったと思いつながら、その都度昼食を持って、各駅に降り絵をかいたことは、遠い思い出となったが、秋田内陸線から望む景色は、春 夏 秋 冬と見ごたえあると、確信している。

笑内駅で降りて、根子迄歩いて行った時のこと。トンネルを抜け、目の前に広がる、家なみや山々に、感動。根子番楽を鑑賞。「国重要無形民俗文化財」感激したことなど、思い出はつきない。「番楽の舞い跳ぶ姿勇ましく」と詠む。

友達と角館の花見、大勢の人々にびつくり。伝承館 美術館、節句と何回も行っているけれど、一人ではなく、友達と行くのが好きだ。

これからも阿仁合駅から、角館駅迄のあいだを途中下車しながら、絵の好きな仲間と、一緒に行きたいと思っている。特に羽後長戸呂駅に下車して、何回も廻りの景色を描いた思い出があるので、又巡ってみたい。

今迄秋田内陸線に乗って、窓から見た時の川柳

芽吹きみる色を溶かして水流る

新緑に靄ゆれ動き絵画みる

無人駅迎えてくれる立ちあおい

内陸線窓いっぱい白雲

絵になるよ白壁前の柿たわわ

以上思いのままに書きました。